

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	担 当 教 員
臨床実習入門総合医学	必修	2	4	2		医学教育センター・秋好 担当教員

【科目名の英文】 Introduction to Clinical Practice

【授業の概要】

- ・リハビリテーションの基本を学ぶ。
- ・在宅医療と介護および緩和ケアの基本を学ぶ。
- ・医療チームの構成員として、相互の尊重のもとに適切な行動をとるとともに、後輩等に対する指導を行う。
- ・キャリアを意識し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。
- ・医療安全の観点から臨床現場を想定した環境でシミュレーションによるトレーニングを積むことで、実際の臨床現場で対処できるようになる。

【具体的な到達目標】

<リハビリテーション>

- ①リハビリテーションの概念と適応（心大血管疾患、呼吸器疾患、癌等の内部障害を含む）を説明できる。
- ②リハビリテーション・チームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。
- ③福祉・介護との連携におけるリハビリテーションの役割を説明できる。
- ④障害を国際生活機能分類の心身機能・身体構造、活動、参加に分けて説明できる。
- ⑤機能障害と日常生活動作(activities of daily living <ADL>)の評価ができる。
- ⑥理学療法、作業療法と言語聴覚療法を概説できる。
- ⑦主な歩行補助具、車椅子、義肢（義手、義足）と装具を概説できる。

<在宅医療と介護>

- ①在宅医療の在り方、今後の必要性和課題を概説できる。
- ②在宅医療における多職種連携の重要性を説明できる。
- ③褥瘡の予防、評価、処置・治療及びチーム医療の重要性を説明できる。
- ④在宅における人生の最終段階における医療、看取りの在り方と課題を概説できる。
- ⑤介護の定義と種類を説明できる。
- ⑥日常生活動作<ADL>（排泄、摂食、入浴等）に応じた介護と環境整備の要点を概説できる。
- ⑦地域包括ケアシステムと介護保険制度、障害者総合支援法等の医療保健福祉制度を概説できる。

<緩和ケア>

- ①緩和ケア（緩和ケアチーム、ホスピス、緩和ケア病棟、在宅緩和ケアを含む）を概説できる。
- ②全人的苦痛を説明できる。
- ③緩和ケアにおいて頻度の高い身体的苦痛、心理社会的苦痛を列挙することができる。
- ④疼痛のアセスメント、疼痛緩和の薬物療法、癌疼痛治療法を説明できる。
- ⑤オピオイドの適応と課題を説明できる。
- ⑥緩和ケアにおける患者・家族の心理を説明できる。

<チーム医療>

- ①チーム医療の意義を説明できる。
- ②医療チームの構成や各構成員の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。
- ③自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることができる。
- ④保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。

<診療録・医療情報管理>

- ①適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録<POMR>を作成できる。
- ②診療経過を主観的所見・客観的所見・評価・計画<SOAP>で記載できる。
- ③症例を適切に要約する習慣を身に付け、状況に応じて提示できる。
- ④プライバシー保護とセキュリティに充分配慮できる。
- ⑤診療録（カルテ）に関する基本的な知識（診療録の管理と保存（電子カルテを含む）、診療録の内容、診

療情報の開示、プライバシー保護、セキュリティ)を説明できる。

⑥診療に関する諸記録(処方箋、入院診療計画書、検査・画像・手術の記録、退院時要約)を説明できる。

⑦診断書、検案書、証明書(診断書、出生証明書、死産証書、死胎検案書、死亡診断書、死体検案書)を説明できる。

⑧電子化された診療情報の作成ができ、管理を説明できる。

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	リハビリテーション医学①	リハビリテーション医学 総論	福祉健康科学部・片岡	講義
2	リハビリテーション医学②	リハビリテーション医学 評価Ⅰ	福祉健康科学部・片岡	講義
3	リハビリテーション医学③	リハビリテーション医学 評価Ⅱ	福祉健康科学部・片岡	講義
4	リハビリテーション医学④	リハビリテーション医学 運動器Ⅰ	リハビリテーション部・池田	講義
5	リハビリテーション医学⑤	リハビリテーション医学 運動器Ⅱ	リハビリテーション部・池田	講義
6	リハビリテーション医学⑥	リハビリテーション医学 脊髄損傷	リハビリテーション部・池田	講義
7	リハビリテーション医学⑦	認知症のリハビリテーション(検査及び非薬物療法)	リハビリテーション部・秋好	講義
8	リハビリテーション医学⑧	心臓リハビリテーション(総論)	リハビリテーション部・秋好	講義
9	リハビリテーション医学⑨	心臓リハビリテーション(各論)	リハビリテーション部・秋好	講義
10	リハビリテーション医学⑩	リハビリテーション医学 義肢・装具	福祉健康科学部・片岡	講義
11	リハビリテーション医学⑪	リハビリテーション医学 脳血管障害	リハビリテーション部・池田	講義
12	多職種連携教育①	チーム医療で治す褥瘡	皮膚科・梅木・豊田・利根	講義
13	多職種連携教育②	多職種連携の原点: NST の実際 医師以外の職種について考える	救命・柴田	講義
14	多職種連携教育③	がん化学療法とチーム医療	腫瘍・血液内科・西川	講義
15	多職種連携教育④	緩和ケアチーム	麻酔科・奥田	講義
16	多職種連携教育⑤	多職種学生(医学科・看護学科・社会福祉科・心理科・理学療法科)との合同授業のための事前学習	医学教育センター・中川、山本	実習
17	多職種連携教育⑥	グループディスカッション	福祉健康科学部・兒玉、看護学科・幸松 医学教育センター・中川、山本	講義 実習
18	多職種連携教育⑦	発表準備	同上	実習
19	多職種連携教育⑧	発表	同上	実習
20	多職種連携教育⑨	解説	同上	講義
21	キャリア・ワークライフバランス教育	キャリア講義、ワークライフバランス教育、グループディスカッション、ロールプレイ	女性医療人キャリア支援センター・松浦・中田 医学教育センター・中川	講義 演習
22	スキルスラボ実習	シミュレータ教育	医学教育センター・中川、山本	実習
23	医療情報管理①	病院情報システム、情報セキュリティ	医療情報部・下村、安徳	講義
24	医療情報管理②	電子カルテの使用法	医療情報部・後藤	講義
25	医療情報管理③	医療情報ネットワーク、個人情報保護	医療情報部・下村	講義
26	医療情報管理④	正しい診療録の書き方	総合診療・宮崎	講義
27	地域医療講演会	大分県知事講演会	大分県医療政策課	講義
28	臨床ガイダンス	臨床実習の心構え	医学教育センター・中川	講義
29	白衣授与式	白衣授与式	学務課	式

【アクティブラーニングの内容】 チュートリアル、小グループディスカッション、ロールプレイ レポート提出、発表会、シミュレータ教育		【その他の工夫】 Moodle と Zoom を使用する。
【時間外学修の内容と時間の目安】 授業の資料で事前に予習する (3h)、復習 (2h)		
【教科書】 教科書を指定しない。		
【参考書】 資料を配布する。		
【成績評価方法及び評価の割合】 授業・実習と発表会の態度 (40%) とレポート (60%) の成績で総合的に評価する。		
【注意事項】 実習・演習は全て出席しなければならない。 講義は 3 分の 2 以上の出席がなければ単位を与えない。		
【備考】 各授業の形態 (対面・オンライン) や実習の内容・方法等については、Moodle 等で別途指示します。		
教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	医師
教員以外で指導に関わる 実務経験の有無	<input type="radio"/>	看護師、医療情報技師、情報安全確保支援士
実務経験をいかした 教育内容	医師・看護師としての実務経験を生かした授業を行う。 医療情報技師は、医療情報システムに関して、情報安全確保支援士は情報セキュリティ全般に関して講義を行う。	
授業形式		